

【国交省】インフラメンテナンスにおける官民技術マッチングのプラットフォーム機能の構築

課題の背景

- ・国土交通省では、インフラメンテナンス国民会議において、ピッチイベント等により課題解決のシーズ技術を掘り起こし、企業マッチングや現場試行等をコーディネートすることでオープンイノベーション、技術開発の促進を目指している。 【ピッチイベント等約 130 件(R2 年 3 月)】
<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/im/>
- ・R2 年 8 月に会員が 2000 者を突破する一方、自治体側が抱えるニーズ件数に対し、自治体の公募等によるマッチング活動も多くない現状(公募等にチャレンジした割合は 5 %程度であり、具体的な契約等を伴う社会実装まで至ったケースは 8 技術・延べ 73 件(R2 年 3 月)に留まっている。)
- ・上記の実装した新技術を知ったきっかけ(マッチングのきっかけ)は、「業務受注者(コンサルタントや点検業者など)からの提案」や「技術保有者からの営業」が全体の 6 割を占める一方、インターネット経由はわずか 1 %であり、オンラインを活用しより円滑で効率的なマッチングの場の提供が必要である。

課題のゴール

- ・全国 1,700 以上の自治体が抱えるインフラメンテナンスにおける新技術へのニーズを効率よく分析・分類し、民間企業が有する技術シーズと結び付け、オンラインでのマッチングフィールドを提供し課題解決、高度化、効率化等を図る。
- ・将来的には、掲載するニーズの要求水準(価格・仕様等)を上げていくことで、オーダーメイドな技術開発や機能を抑えた低価格化等のオープンイノベーションを促進する場を目指す。

求められる要件(機能要求・関連基準等)

- ・ユーザー(自治体職員、企業社員)が、インフラメンテナンスに関するニーズ、技術シーズの双方を自由記述で登録できるプラットフォームであること。
- ・検索機能等を有し、ニーズ側から適したシーズ、またはシーズ側から適したニーズに誘導、アプローチが可能であること。
※ニーズ登録時に状況写真等を送付すれば、AI 等が判断して適切な新技術を提案すること等が可能であればなおよい。
- ・ニーズ側が本プラットフォーム内でシーズを募ることが可能などマッチングを促進する機能を有すること。
- ・ユーザー(自治体職員、企業社員)が一般的な業務端末・スマホ等で利用可能であること。プログラミング等の専門知識がない者でも使用できること。

協力事項

- ・インフラメンテナンス国民会議に所属している約 1,000 の自治体(R3. 1. 29 時点)から、4 半期に一度収集しているニーズ調査の結果を提供可能。
※技術シーズについては、将来的に聴取し本プラットフォームに掲載していくことを想定。
- ・取組内容の評価